

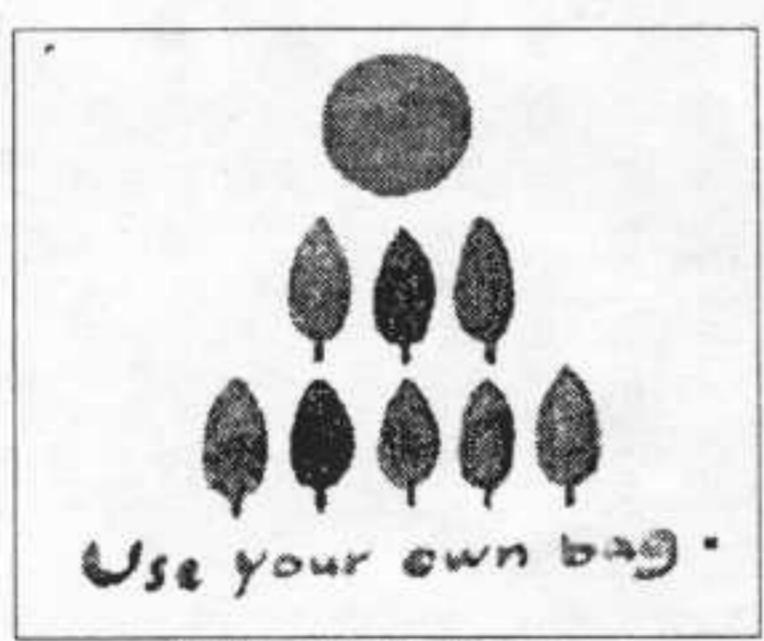
ごみを減らそう!!



新谷さんの作品をプリントした手提げ袋。太陽と木を題材にした图案に、「Use your own bag」と描かれている。

「かわいいね」、「これ、ええわあ」、「つわも欲しいわ」と、写真のバッグは至って女性に評判がいい。このバッグ、実は京都市ごみ減量推進会議のオリジナル。全市キャンベーン事業として、一般公募による買い物袋デザインコンテストを行い、最優秀デザインに選ばれた新谷葉子さんの作品を一澤帆布の協力を得てプリントした手提げバッグがこれだ。50袋を制作し、市民にプレゼントすることになり、マスコミ等を通して呼びかけたところ、645通もの応募があった。

ヨーロッパでは、買い物に自分の袋を持っていくのが常識。ところが日本ではお店で渡してくれるレジボリ袋を当然のサービスとして受け取り、ごみとして捨てている。ショッピング用の紙袋は毎月5.4枚、スーパーなどのレジボリ袋は、週8.4枚使用されているのが実状という。(ハイ・ムーン作画「絵コロジー」より)なんとか買い物袋持参派を増やそうと、デザインコンテストを実施した京都市ごみ減量推進会議では、今後も新谷さんの素敵なデザインをひとつシンボルにして買い物袋持参を呼びかけていく。12.9の倍率で手提げバックを手にしたラッキーな人が、広告塔になり、買い物袋持参派が増えることに期待したい。



新谷葉子さんのデザインマーク

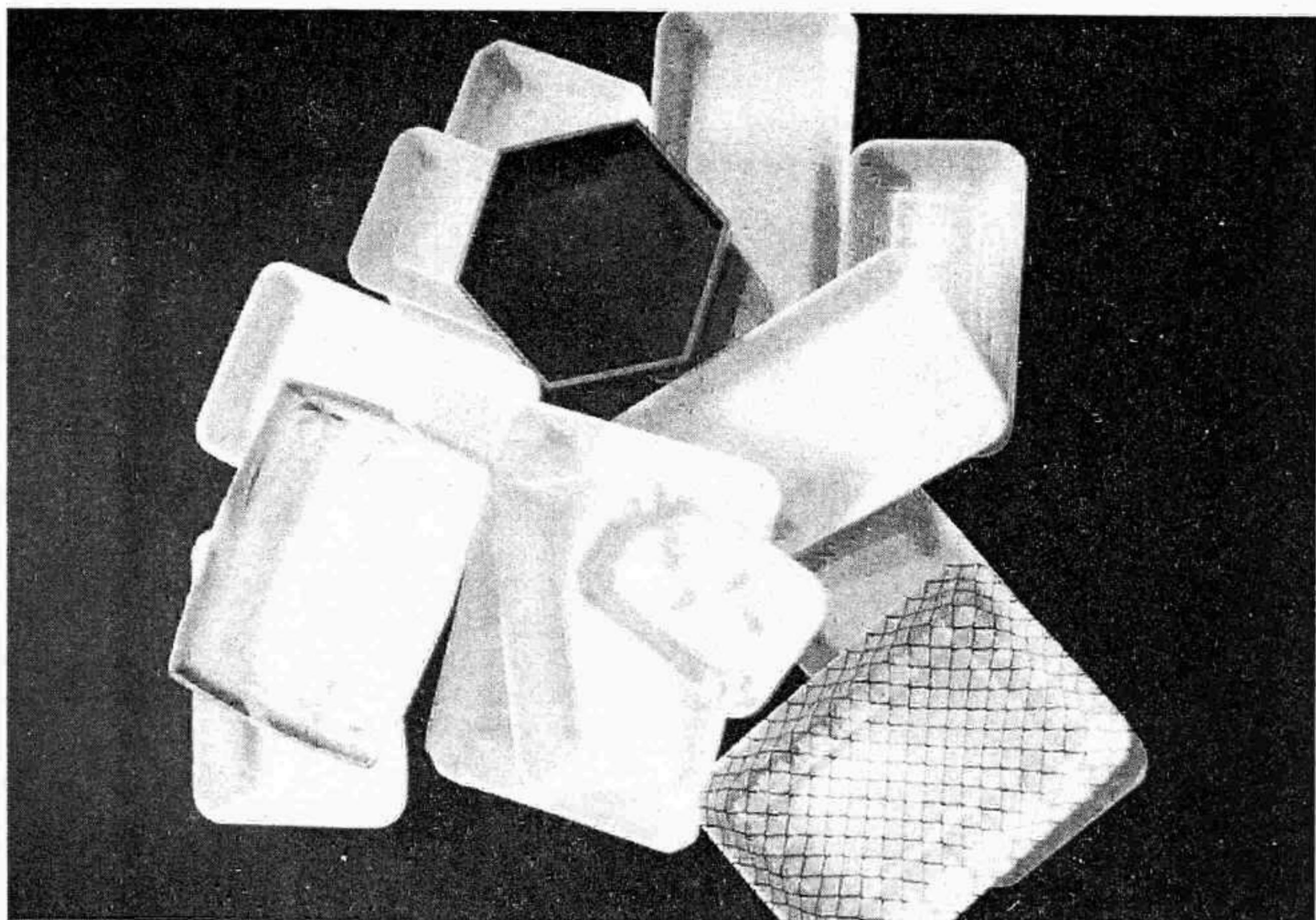
ごみ情報最前線

特 集

「トレー・リサイクルの行方」

牛肉、魚、野菜…。生鮮食品はもちろん惣菜、弁当などなど。スーパーや食料品店ではトレーが惜しげもなく使われている。ごみ全体からすると約3%といわれているが、毎日積み重なるとすごい量になる。ポリスチレンペーパー成型加工工業組合の集計によると1997年度のPSPトレーの生産量は、75,280トン。平均的なトレー(4枚)に換算すると175億枚に。店頭での回収が広がってきたものの、8%程度しか回収されていない現実から考えると膨大なトレーがごみとして捨てられていることになる。なんとかしたいと市民、流通、メーカーの立場でトレー・リサイクルに取り組んできた、ご三方に話をうかがった。

●出席者 大上梅子氏 歌島秀明氏 大島芳和氏



洗って返す。リサイクルの基本が根付くまでが大変だった。(歌島氏)

大上●トレーは、スーパーの進出とともに昭和45年頃から急激に増えていきました。最初は、魚や肉だけに使われていたのですが、あれよあれよという間に野菜、果物に使われ、今では惣菜に弁当にトレーが嫌というほど用いられています。私たちは今、とにかく何かしたいとの思いでトレーのリサイクルに取り組んでいますが、消費者の中にはずっと前、「バックパック運動」というのを進めておられた方があります。スーパーのレジを通るとぐにその場でラップをはがしトレーを返すというのですが、食品の衛生上からも、洗って返すというリサイクルへの協力の点からも問題が多く、続かなかつたようです。そんな状況を踏まえ、現在に至っているわけです。

トレーのリサイクルのバイオニアといえるエフピコさんに、まずお話を聞いては?私たちもエフピコさんの工場見学をきっかけに気になつてなんとかしたいと思っていた、トレーのリサイクルに本格的に乗り出すことになつたのですから…。

歌島●では、私から発言させてもらいます。当社がトレーのリサイクルについて考へるようになつたのは1989年頃のこと。消費者活動が活発なアメリカでハンバーガーに用いていたPSP製のケースが紙製に変わったこ



大上 梅子 (おがみ うめこ)

京都市消費者モニター経験者の会会員
京都市消費者モニターとして実績を重ねた後、平成5年京都市消費者モニター経験者の会に入会。すぐにトレー部会にて活動。実態調査、店頭指導を行う。平成6年同会幹事、平成7年代表幹事を務める。平成8年よりめぐるくん推進友の会幹事も兼任。

とに端を発しているんです。フロンガスの点で問題になったからなんですが、この二つは我々にとっては衝撃的でした。これはいけない、使い捨てるという発想を改めないと社の所在地である福山のスーパーで実験的に回収を始め、商品化の手がかりにしていきました。今だから笑って言えますが、いろいろ大変でした。消費者の方も要領を得ず、きれいに洗って返してもらえないからです。あれこれ試してどうやら回収する器がごみ箱のような状態では協力してもらえないとかなり、専用の回収ボックスを設置しました。時には一枚につき、1円渡すテポジット制を取り入れ協力してもらえるよう訴えました。回収できぬトレーについて知識を普及させたり、きれいに洗ってもらえるようチェックしたりしたもので、徹底までは1~2年かかりましたね。そうしてじるうちに消費者の方も

意識が高くなり、回収状態が良くなっているのが見えます。そこで、大上さんが所属しておられる京都市消費者モニター経験者の会の方々が見学にこられたのはいつ頃ですか？

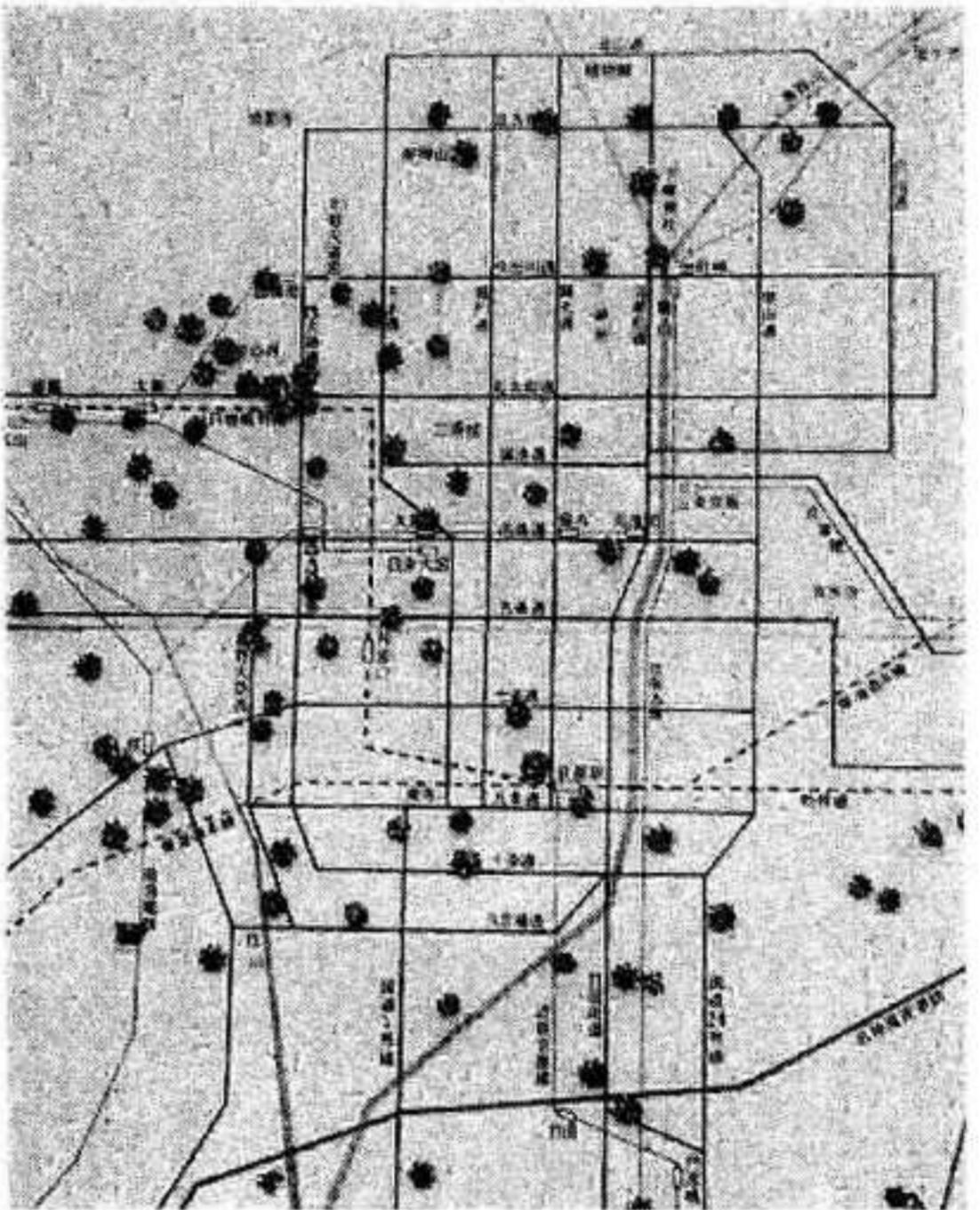
大上●私たちの会では、平成4年からトレー部会を発足させたんです。工場を見学し、トレーからトレーにリサイクルできることを

この目で確かめ、これなら私たちにもできる

んじゃないかと、帰つてすぐに学習会をしたのをはっきりと覚えています。その後、メンバー14人でトレー部会を発足させました。すでにトレーの回収をされていたスーパーの店頭で実態調査をしたりして、活動を進めていました。あるスーパーの店頭では回収指導もやったんですよ。チラシでトレーの回収を告知し、回収日にはたすき掛けで店頭に立ち回りサイクルを呼びかけました。当時はまだ理解されず、回収する店側でも「汚いま出されるのではないか」と消費者の協

方で、まず回収システムの確立を急ぎました。その結果、鳥丸店など数店舗で実験を行い、円滑に運ぶよう改良を加えていきました。最初は店で店頭回収をスタートさせました。最初はコープ委員会の組合員が店頭に立ち、来店する組合員にルールの呼びかけを行いました。納豆、しめじなどのトレーは回収できないなど、基本的な注意事項の指導もしました。

京都生協さんでもすいぶん早くからトレーの回収を実施されていますし、回収方法など消費者にとってもいいかたちで進めておられますね。まさにトレー・リサイクルの先駆ですが、ここまで体制を整えるのは大変でしたでしょうね。



京都市内の発泡スチロールトレー回収店舗のマップ

トレーを進め、平成7年に完成させました。京都生協さんでもすいぶん早くからトレーの回収を実施されていますし、回収方法など消費者にとってもいいかたちで進めておられますね。まさにトレー・リサイクルの先駆ですが、ここまで体制を整えるのは大変でしたですね。そうしてじるうちに消費者の方も

独自のシステムを切り開いて 6年前から全店で回収をスタート (大島氏)

大島●京都生協の場合、1989年の総代会で組合員の方から「トレーの回収をして欲しい」と意見が出されたのが始まりでした。京都内では137店が回収を実施されています。私たちトレー部会では回収店舗のマッ

包裝をすすめました。しかし意見に基づいて排出したトレーをどうするかという考え方で、まず回収システムの確立を急ぎました。生協が店頭回収し、京都高齢者事業団が減容し、発泡スチレンシート工業会がスチレン樹脂に加工するという、システムをつくったのです。鳥丸店など数店舗で実験を行い、円滑に運ぶよう改良を加えていきました。最初は店で店頭回収をスタートさせました。最初はコープ委員会の組合員が店頭に立ち、来店する組合員にルールの呼びかけを行いました。納豆、しめじなどのトレーは回収できないなど、基本的な注意事項の指導もしました。

回収は当初、ぎくしゃくしたこともありましたね。店の入り口付近に回収ボックスを設置したのですが、ボックスがいっぱいになると同時に、新しい袋に入れ替えなければならぬし、人手の問題もありました。また回収量が予想以上に多くて加工先への運搬も大変でした。あれやこれやでなんとか続けて1995年トレーメーカー各社で回収してくれるようになり、運搬や減容の負担が軽くなりました。

大上●トレーのリサイクルについては流通側だけが努力してもできるものではありません。消費者がやる気にならざるとできない。トレーを洗って乾かす作業にしても、買い物つい



歌島秀明 (うたしま ひであき)

1973年株式会社エフピコに入社。営業畑を中心
に勤務。平成8年7月より環境対策室室長（東京
駐在）として、LCAを踏まえたPSPトレーのリサ
イクルの推進に力を尽くし回収拠点の拡大などを図
ってきた。平成9年6月よりTECS（テクス）事業
部部長を兼任。

TECS:Total Environment Hygiene Control System
総合衛生管理システム

大島●組合員の協力については、購入した後、洗つて乾かし、買い物時に店頭のボックスに入れるという方法で組合員同士に徹底してもらつたので汚れたものもなく、問題はありませんでしたね。ただ回収できるトレーとできないトレーを区別することが組合員の合意となるまで時間がかかりました。初年度で回収量は40㌧にも上りました。1995年は少し落ちて36㌧、今年は供給量52㌧を上回る60㌧になると予測しています。組合員にとってはトレーのリサイクルが当たり前になつているようです。生協で買ったものではないトレーが持ち込まれているのでしょうか。生協で回収したトレーのうち28%がそのままリサイクルトレーとして活用されています。

大上●確かに、リサイクルの意識が高まりリサイクル率は高まっているのかもしれません。

大島●カラーフードレーもつかイクルでありますが
前に一度、生協で使用するトレーを白に統
できなかつたことがあります。といふ
がやはり全体の合意を得られなかつた。組
員の需要もあり、事業的にどのよひに整合性
を持たせるかが課題として浮かび上がつた
です。

私ども京都生協ではトレーの使用を減らし
うと努力を続け、相当数がノートレー包装に
切り替わりました。しかしひとトレーをなくすこ
とは現状では無理があります。安全に食品を
お届けするための容器包装材としてトレーは
衛生面からも欠かせないものであるといふは
論に達し、減量を行いながら、しっかりとサ
イクルするところ姿勢で取り組んでいます。
歌島●その通りですね。トレーは現代生活に
欠かせないものです。今では輸出もあり、海
外での需要も広がつてきています。PSDト

も少なすぎます。あるスーパーでの調査になると店頭での回収に協力する人は6000人中163人だったという話も聞きますし、レーに関してはまだまだ消費者側も意識がないように思えます。

それにカラートレー・透明トレーなど品目が増え、リサイクルを妨げているのではとがかりです。

けれど、業界全体つまりトレーの生産量全からすればトレーのリサイクル率は低いのはないでしょうか？。10枚のうち一枚がリサイクルトレーということですが、それにし

レーは幸いにも単一素材でできているためマテリアルリサイクルが可能です。石油資源の節約になり、ごみ減量効果の面からも環境負荷が低いのが特徴です。

当社はそもそもボリスチレンペーパー成型加工メーカー。当初はトレーではなくベン立て、プランターなどの製品を生産していましたが、時代の趨勢の中、工場の水の問題が

回収拠点を増やすなど市民の立場でリサイクルに寄与したい（大上氏）

大上●今後の課題の一つとして回収率を高めることがあると思うのですが、それには回収拠点を増やすなればなりません。例えば、テイクアウトのお店やコンビニなど回収が

は環境教育の一環としてリサイクルに取り組むなどしているところもあります。もちろん、スーパーなどの小売の店頭が圧倒的に多いことは事実ですが。

今、回収拠点が5,600、回収量は圧倒的90,000になりました。コハツーだけではなく、なんとか2000年には回収拠点を一万にしたいですね。

大島芳和 (おおしま よしかず)

1985年京都生協に入る。総合企画室企画担当、南ブロック事務局組織担当、組合員活動企画室企画担当などを経て、1996年2月より環境担当に。1996年度は、環境マネジメント・環境監査制度の導入に取り組んだ。毎年、環境事業活動の企画にあたっている。



再生品の利用率をあけることが大切ではないでしょうか。歌島●メーカーとしては「C A（ライフサイクルアセスメント）という視点で容器包装を突き詰めていく必要があります。リサイクルを見据えての素材の見直し、リサイクルシステムの確立をきちんとしないかなくては…。21世紀は

す。2000年に向けて循環型の社会の形成を目指す時、いかにして回収システムを合理化できるのか、質を上げていくのか、再生品の利用を促進するのかが事業者に問われています。トレーに関しても、マテリアルリサイクルを基本に再生品の幅はもっともっと拡がっていっていいと思います。

大島●リサイクルの入口を持つ私どもとしては、今の状況を見ていると、いかにして質的低下に歯止めをかけるかという点もひとつの大問題ですね。量が増えるのと並行して、ルールを知らない人も出てきます。リサイクルというものは放っておくと質が低下するので常にルールの徹底に努めなくてはなりません。店内放送、掲示、キャンペーンなどくり返さなければ…。組合員に協力を呼びかけるのは私たちの努めですね。私たちも含め事業者は、リサイクルして当たり前時代に入っています。



発泡トレー専用回収ボックス、京都生協下鴨コープにて

発泡スチロールトレー 判別マーク

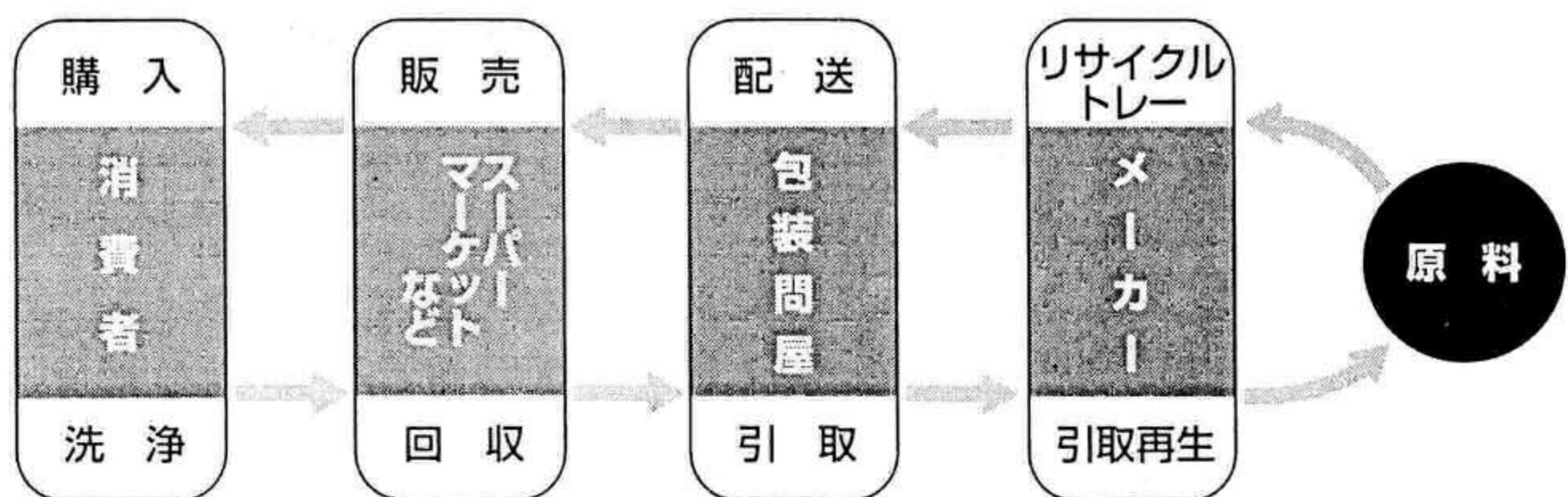


素材名：ポリスチレン
用途例：PSPトレー 魚箱
食卓関連 雑貨品

※中食（チュウショク）
レストランなどで食事する「外食」と家庭手作り料理を食べる「内食」の中間に当たるという意味を込めて、持ち帰り弁当・調理込み食品・惣菜などを製造・販売する企業がジャンルとして呼ぶ名称

政だけに絞り込まれるようではリサイクル率が低下する可能性があります。いつでもだれでもどこでもリサイクルに協力できる体制を整えないといけません。

発泡スチロールトレー リサイクルの流れ



発泡スチロールトレーの市内回収店舗

(京都市消費者モニター経験者の会調べ) 平成9年4月現在

北 区

エムジーショップ金閣寺店	衣笠東御所ノ内町48-1	毎 日
エムジーショップ新町店	小山西元町9	毎 日
エムジーショップ西賀茂店	西賀茂丸川町31	毎 日
ニューかみとも	紫竹西高縄町8	日曜11時~14時
HOWDY鞍楽	鞍馬口通室町東入小山町226	毎 日
メルカードーふなおか	紫野西藤ノ森西北町	毎 日
マイカル北大路ビブレ	小山北上総町49-1	毎 日
イズミヤ白梅町店	北野下白梅町6-1	毎 日

上 京 区

ジャスコ西陣店	五辻通浄福寺西入一色町27	毎 日
スーパー北野西陣店	中立売通松屋町西入	毎 日
ボロロッカ京都厚生会出町店	河原町今出川上ル出町商店街内	毎 日
ニッショーストア千本店	千本通下長者町上ル	毎 日
北野商店街振興組合	一条通七本松西入ル品川フードビル3F	第1火曜
出町商店街振興組合	木形通出町西入ル二神町	第3水曜
品川フードプール	七本松通中立売西入ル東町	第1火曜

左 京 区

イズミヤ高野店	高野東開町16	毎 日
ジャスコ東山二条店	聖護院蓮華藏町31-1	毎 日
ヘルプの会一乗寺店	一乗寺高槻町6	毎 日
ボロロッカ京都厚生会北大路店	下鴨本町10	毎 日
下鴨公設小売市場	下鴨貴船町62	毎 日
グレースたなか	田中飛鳥中町40	毎 日

中 京 区

スーパー北野御池店	西ノ京西月光町6-1	月曜、金曜
スーパー北野高辻店	壬生西檜町8	毎 日
ライフ壬生店	壬生西檜町6	毎 日
エムジーショップ四条大宮店	壬生賀陽御所町3-7	毎 日
マルゼン三条店	千本三条東壬生馬場町5	水曜
マルゼン高辻店	壬生辻36-1	水曜
西友三条店	神泉苑姉小路下瓦師69	毎 日
天神御旅商店街振興組合	西ノ京大炊御門町8-4	第1・第3金曜
一水河口	西ノ京大炊御門町15	第1・第3金曜
梅田食料品店	西ノ京大炊御門町2	第1・第3金曜
きたむらそうざい店	西ノ京北円町70	第1・第3金曜
フードショップカツラ	西ノ京北円町75	毎 日

東 区

スマイル本町店	本町19丁目425	毎 日
ハッピー六原	松原通大和大路東入	毎 日
肉の大橋亭	松原通大和大路西入ル弓矢町11	毎 日

山 科 区

フレスコ勤修	勤修寺西栗栖野町29	毎 日
ハッピー山科	東野舞台町18	毎 日
ヒカリヤ山科店	柳辻草海道町15	毎 日
ビッグM	東野北井ノ上町10-29	毎 日
フレンドリーショップ寿屋小山店	小山姫子町5-1	毎 日
フレンドリーショップ寿屋東店	大塚西浦町37-2	毎 日
西友山科店	音羽野田町	毎 日
マツヤスーパー西野山店	西野山中鳥井町63	木曜

下 京 区

エムジーショップ島原店	松屋町通丹波口上ル	毎 日
エビスク七条	新町七条下ル東塩小路	毎 日
藤井大丸	寺町通四条下ル貞安町605	毎 日

南 区

丸善商店吉祥院営業所	吉祥院池ノ内町24-3	木曜
ジャスコ京都南店	東九条南山王町5-3	毎 日
フードショップコスモ九条店	唐橋堂ノ前町22-1	毎 日
豊民	西九条藤ノ畠14	毎 日
田中留	東九条鳥丸町47	毎 日
魚松	東九条東岩本町34	毎 日
丸元商店	吉祥院船戸町7-8-1	土曜
ダイエー上久世店	久世上久世	毎 日

右 京 区

エムジーショップ福王寺店	宇多野福王寺町31	毎 日
キートス常盤店	常盤塙町1-10	毎 日
グロッサリーストアよしむら	御室岡ノ裾町34	毎 日
ジャスコ帷子ノ辻店	太秦帷子ノ辻町30-3	毎 日
ジャスコ京都西店	山ノ内池尻町1-1	毎 日
スーパー大黒屋太秦店	太秦楊ケ本町2-1	毎 日
ミール花園	花園木辻南12	毎 日
嵯峨公設市場協同組合	嵯峨折戸町28-1	毎 日
丸善葛野店	西京極牛塚町29	木曜

西 京 区

エポック洛西店	大原野西竹の里町1丁目19-3	毎 日
高島屋洛西店	大原野東境谷町2丁目5-5	毎 日
スーパー北野桂店	川島東代町77-1	毎 日
ボロロッカ桂店	川島有栖川町13	毎 日
スーパーポップ	川島栗田町	毎 日
西友桂店	山田大吉見町	毎 日
西友桂坂店	大枝沓掛町7丁目1-13	毎 日
ホッカイヤ	桂市ノ前町18	水曜・金曜

伏 見 区

サンプラザ久我の杜店	久我森の宮14-9	毎 日
Kマート下鳥羽店	下鳥羽柳長町55	毎 日
Kマート桃山南口店	桃山町養齋16-37	毎 日
厚生会醍醐店	醍醐大溝町8-1	毎 日
スーパーナカトミ	深草平田町35	日曜
スマイル藤ノ森店	深草直違橋2-422	毎 日
スマイル桃山南口店	桃山養齋17	毎 日
ダイエー藤ノ森店	深草キト口町82	毎 日
サティ伏見店	御堂前町616	毎 日
西友伏見店	伯耆町15	毎 日
イズミヤ伏見店	深草出羽屋敷	毎 日
イズミヤ六地蔵店	桃山西尾	毎 日
近商ストア向島店	向島四ツ谷池14-30	毎 日
スーパーフレスコ丹波橋	東大文字町1063	毎 日
総合食品水谷	横大路東裏町24	毎 日
(株)マスジ	新町4丁目451	毎 日

*上記以外にも、京都生活協同組合の組合員センター等で回収されています。

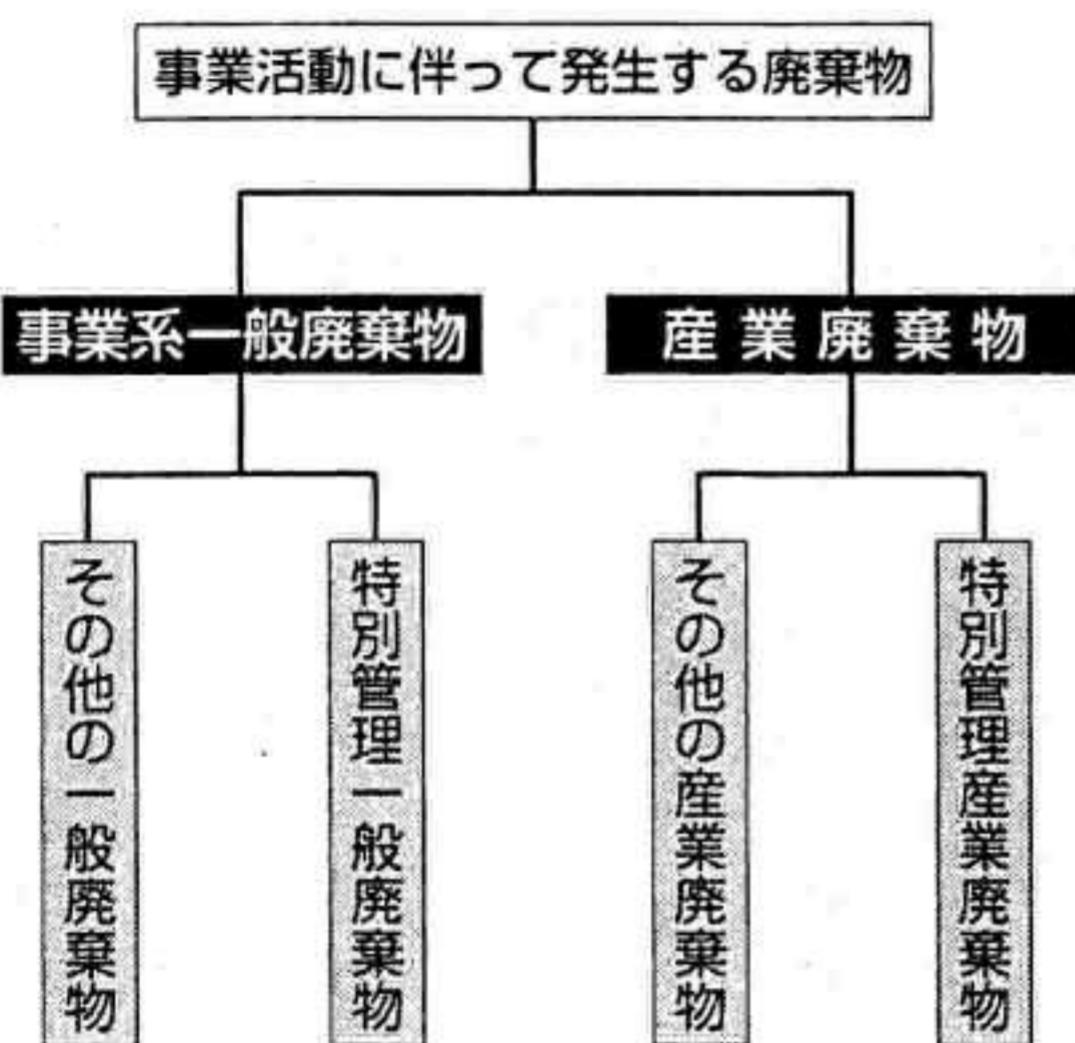
*回収日は変わることもありますので、お確かめください。

行政からのお知らせ

京都市では、事業所のごみの減量・廃棄に対し指導を行っています。

みんないっしょにごみ減量

環境を思いやる事業所づくり ……



1 事業者の責務

廃棄物の処理等については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「京都市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」により、事業者は事業活動に伴って生じた廃棄物の処理責任について次のとおり規定されています。

3 ごみ減量・適正処理のために

② 現状把握

*「ごみ減量に取り組もう。リサイクルを推進しよう。」

⑤ チョウク

さあ、実行です。担当者たけて強まるのではなく
みんなで取り組んでください。

2 廃棄物の分類

- ☆事業活動に伴つて生じた廃棄物は、自らの責任で適正に処理すること。
- ☆事業系廃棄物の発生を抑制し、及びその再生利用を促進することにより、廃棄物の減量を図ること。
- ☆廃棄物の減量等について、国や市の施策に協力すること。

③減量計画を作る

発生したごみは、だれが、どこへ集めて、どんな方法で処理されてくるかを調べてください。せっかく分別していても、最終処理が焼却ではリサイクルを推進してくることにはなりません。

4
無理なく無駄なく効率よく

- *改善ポイントを見つかる。
現状がわかると、問題点も見えてきます。担当者だけでなく、いろいろな人達のアイデアを求めてください。
- *計画は具体的に…。
「紙はリサイクルしましょう。」という形ではなく、

③減量計画を作る

発生したごみは、だれが、どこへ集めて、どんな方法で処理されてくるかを調べてください。せっかく分別していても、最終処理が焼却ではリサイクルを推進してくることにはなりません。

*環境整備も忘れずに

回収箱の設置、保管場所の明示なども大切です。必要な回収容器等は、新規に購入するだけが調達方法ではありません。今あるものを上手く再利用する方

率先して取り組んでいただきますようお願いします。

市内の事業用建築物のうち、延床面積が3,000㎡以上のところでは、平成6年度から、以下二つた取組を「事業系廃棄物減量計画書」にまとめ、毎年5月31日までに、京都市に報告する」とが義務付けられています。また、新たに建物を建築される際には、「廃棄物保管場所設置届」により、廃棄物の保管場所の設置について事前協議する」となります。

「うちは、3,000㎡未満だから、対象外だ。」そんなことがあります。事業者の責務と云ふことでは、みな

法も考えてみてください

さあ、実行です。担当者だけで頑張るのではなく、みんなの取組みでやればいい。

地域ごみ減量推進会議相次いで立ち上げ

地域のごみ減らしの拠点となる地域ごみ減量推進会議が左京区と山科区で発足した。昨年1月、下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議が発足して以来、他地域での立ち上げが待たれていた。

聖護院・川東・新洞学区

ごみ減量推進会議2月22日スタート

発起人20人の呼びかけで左京区に地域ごみ減量推進会議第2号が誕生し、去る2月22日(日)午後、設立総会が開かれた。高月 純会長、藤川要藏京都市清掃局ごみ減量りサイクル推進室長らも駆けつけ祝辞を述べた。議事は渋りなく進み、会長、副会長、委員など役員19人が選出された。

「地に足を付けて、ます勉強し、みんなで話し合いながらできるところからごみ減らしを進めていきたい」と今西恒子会長は謙虚に語る。

総会の後、堀 孝弘氏(環境市民)による講演「誰でもできるごみ減らし」が行われた。当日の参加者は82名にのぼり、会場はこれから活動の成果に期待を寄せ、熱氣にあふれていた。



聖護院・川東・新洞学区ごみ減量推進会議 今西恒子会長。



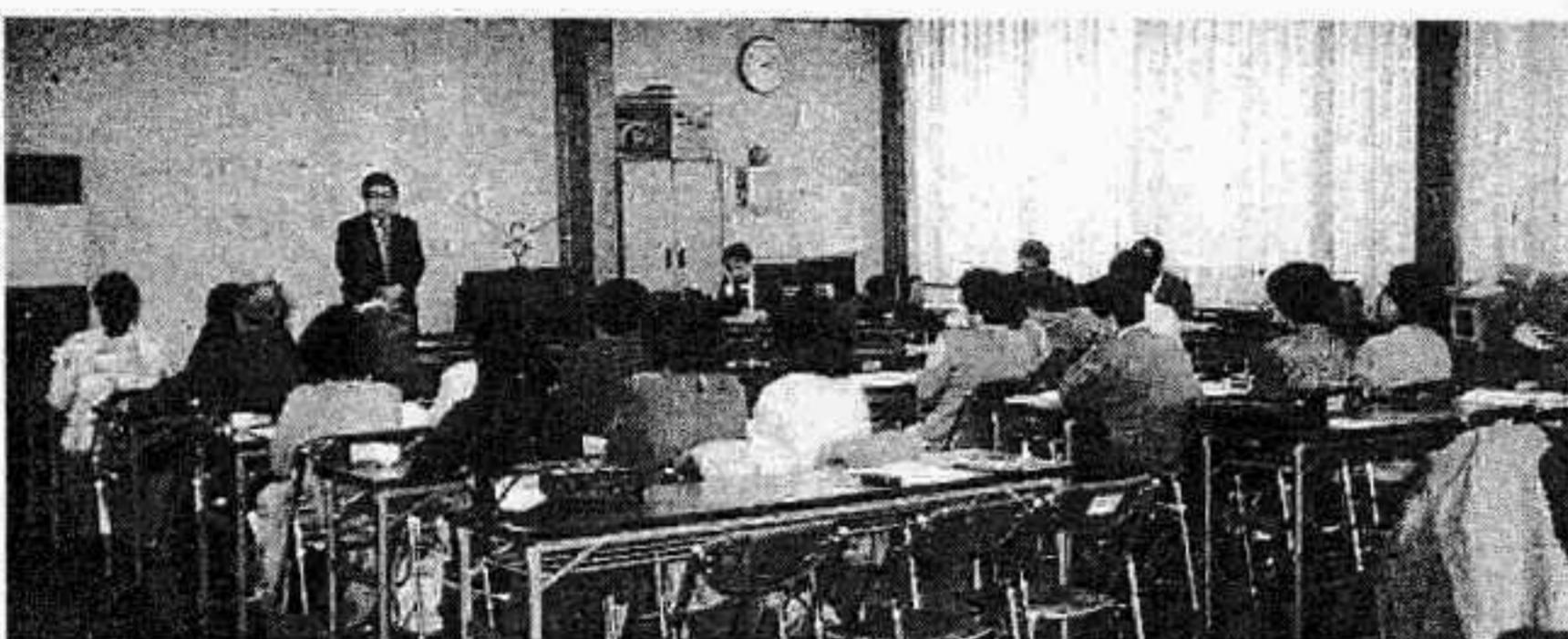
挨拶する高月会長

総会の後、堀 孝弘氏(環境市民)による講演「誰でもできるごみ減らし」が行われた。当日の参加者は82名にのぼり、会場はこれから活動の成果に期待を寄せ、熱氣にあふれていた。

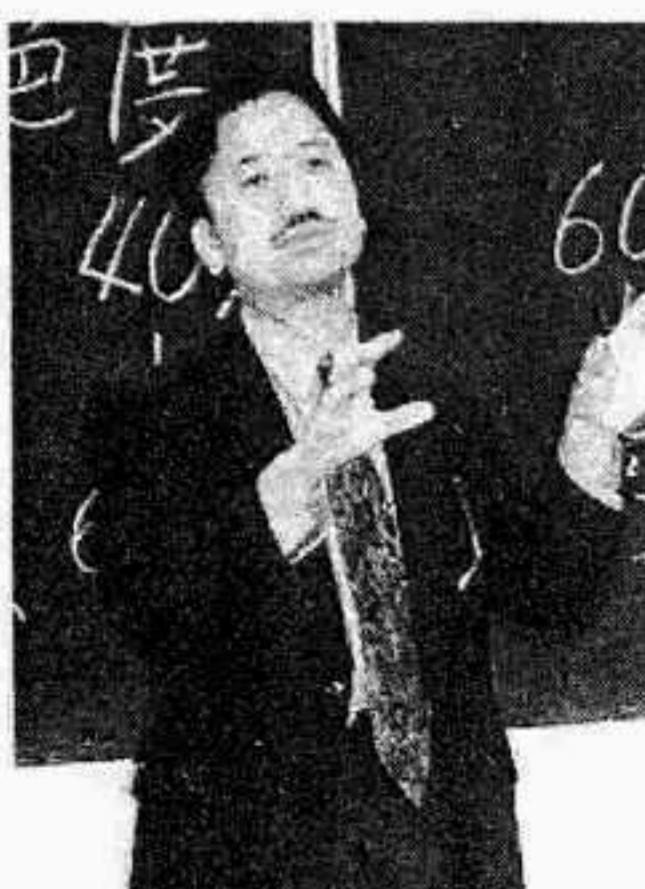
山科西野地域ごみ減量推進会議 「めぐる会」3月9日スタート!

地域ごみ減量推進会議第3号は山科区西野に誕生した。3月9日(月)午後2時、約20名が山科団地A・B棟集会所に集まり、設立総会が開催された。設立発起人代表山内寛氏の挨拶に続き、藤川要藏京都市清掃局ごみ減量りサイクル推進室長をはじめとする来賓が祝辞を述べた。当日会長に決定した村西法子氏は「ごみ問題は私のライフケースです。課題は山積していますが、まずは多くの人が困つておられる古紙回収を徹底させたい」と前向きな姿勢を見せて

いる。通称「めぐる会」と名付けられた山科西野地域ごみ減量推進会議は、会員40名。規模の小さな点を生かした地域密着型の活動に期待したいところである。



山科西野地域ごみ減量推進会議設立総会



講演する松本育生氏

総会の後、講師に松本育生氏(環境市民事務局責任者)を迎えて、記念講演のつどいが開かれ、「やさしいごみ減らしに関するおはなし」を熱心に聞き入った。

環境先進国ドイツの実状などが話された。



山科西野地域ごみ減量推進会議 村西法子会長

解散それぞれの学区毎に独立し、3つの団体に1997年1月発足し、使用済みの天ぷら油の回収はじめ活発な活動を展開してきた下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議だが、1年間の活動を通して小回りの利く、より地域に根ざした独自性のある活動に取り組む必要性を感じ、それぞれの学区毎に団体を発足させることになった。(平成10年4月1日よりスタート)

新たな出発への期待を込め下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議としては、最後の集いが開かれ、松本育生氏(環境市民事務局責任者)が「資源保護リサイクルの推進について」と題する講演を行った。

NEWS

新谷葉子さんら受賞者4名の笑顔が眩しかった 買い物袋デザインコンテストの表彰式



表彰状を受ける新谷さん

昨年10月～12月にかけて一般公募により「デザインマーク」を募集してきた、買い物袋デザインコンテストに41作品が寄せられ、去る1月13日審査会が行われ、4作品が受賞の栄を受けることになった。審査委員長漫画家ハイ・ムーン氏、他、5名の審査員が審査、新谷さんの作品が最優秀賞に輝いた。「押しつけがましい表現でなく、だれにでも愛されるソフトさ」が印象的だったとは、審査にあたった京都デザイン協会代表・恩地惇氏の評。3月7日（土）午後1時30分よりルビノ京都堀川で開かれた表彰式では、4名の受賞者に表彰状と賞金、出来立ての新谷さんの「デザインマーク入りのオリジナル買い物袋」が授与された。

●受賞者 最優秀賞 新谷葉子さん（左京区26歳）

優秀賞

今川ゆかりさん（左京区19歳）
奥村佳子さん（右京区25歳）
和多田一美さん（中京区30歳）

業として環境学習会「環境にいいショッピング袋って？」が3月7日（土）午後2時より、ルビノ京都堀川で開かれた。

買い物袋デザインコンテスト表彰式に引き続き、関連事業として環境学習会「環境にいいショッピング袋って？」が3月7日（土）午後2時より、ルビノ京都堀川で開かれた。ショッピング袋の調査報告にはじまり、蛍光X線を通して調査にあたった京大環境保全センター高月紘教授の論評では、「各家庭では毎週8.4枚の買い物袋を使っている」などの実状が報告された。2年前からごみの焼却灰に混入する鉛の危険性を発表していた日本工業大学佐藤茂夫助教授は、「顔料に含まれる物質からダイオキシンが生成される危険性が高い。クロム酸鉛を含有したレジ袋に由来する焼却灰中の鉛は無視できないレベルにある」と警告した。また、パッケージデザイナー竹林善孝氏は、袋も

ショッピングなショッピング袋 環境学習会でダイオキシンなど有害物質に警鐘

ショッピング袋の有害物質が明らかになり、あらためて京都市ごみ減量推進会議における買い物袋持参の呼びかけへの意義が深まった。

卒業生から新入生への思いやり要らない道具を譲る リサイクル市が大学で花盛り

大学生活の4年間、使っていた道具類を卒業と同時にごみと捨て去るのは止めて!とリサイクル市が始まつたのは今から11年前。先鞭を切った京大に続けと4年前からは同志社大も取り組み、この春からは立命館大などでも市を開くほど広がってきた。この種の市について回るのが収納場所の問題。マスコミで悩みを訴えスペースの問題も解決し、今年も3月末から4月あちこちの大学で開かれ

た。リサイクル市の元祖的な京大では、「リサイクル市へのい



ショッピング袋の有害性を指摘する佐藤助教授

大学で開かれた。リサイクル市の元祖的な京大では、「リサイクル市へのい

ざない」なる冊子を発行し新入生に向けて利用を呼びかけた。



京大リサイクル市。約750点もの家具類が時計台下に並んだ

地域ごみ減量推進会議の設立及び活動支援

ごみ減らし活動を広く伝えるために
情報収集・提供活動のために必要な事業の展開

いろいろ体験しながら、
ごみ減らしが手込んだ。

●ごみ問題のワークショップ（参加型学習会）

の開催

地域ごみ減量推進会議の立ち上げのためには、
すぐに役立つ知識とノウハウが必要と人材育
成を期してワークショップを開催した。（参加
者数：一部・二部・三部で延べ10名）

プログラム：

- ・第一部／グリーンハウスショーマー「買い物
ごみ減らし」の豆の口・の豆13日講師：堀
孝弘氏（環境市民）
- ・第二部／ごみを減らそう「パートナーシッ
プが大切」

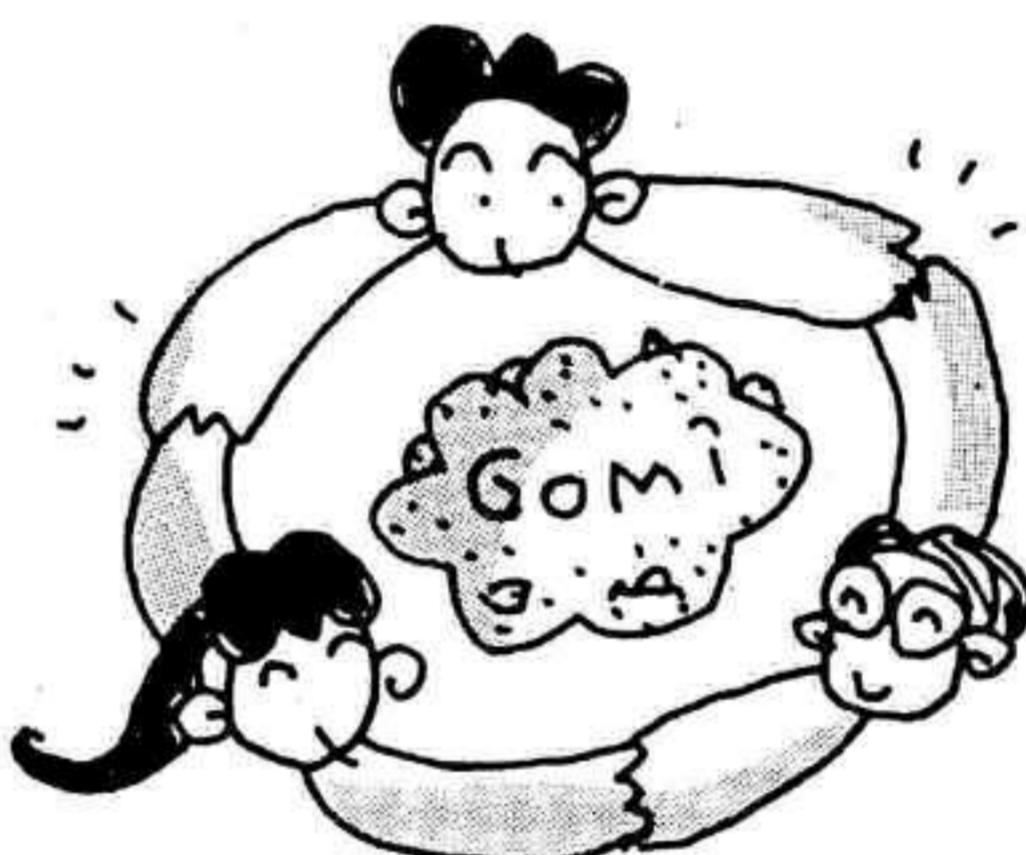
の豆27日・の豆30日、講師：能村 聰氏
(環境市民)

・第三部／「地域でのグループづくり」10月
16日・10月25日、講師：西村 仁志氏（環境
共育事務所カラーズ）

会場：職員会館かもがわ他
会員の顔が見えてきた。

ネットワークづくりの基本ができだ。

140会員の住所・連絡先はもちろん活動概
要やごみへの取り組みなどを明記した名簿が
平成10年1月完成し配布した。（A4サイズ
29ページ）



テーマ毎の座談会やコーナーなど
情報も盛りだくさん！

●会報『ごみを減らそう…』の発行

平成8年度の第一回に続き、年4回発行し会
員に配布した。

第2号、8月発行、第3号 12月発行、第4
号 12月発行、第5号 3月発行（A4サイ
ズ、12ページまたは16ページ）

メディアを通して多くの人に
ごみ減らしメッセージを届けた。

●KBSの京都のラジオ番組を通じてのごみ減
量キャンペーンの展開

人気ラジオ番組「京都大好きラジオ」を通し、
「いかにしてごみを減らすか・家庭ごみの減ら
し方」をテーマに毎回ゲストを交えてごみ減量
を呼びかけた。

放送：10月16日(月)～10月12日(木)4週間

●地域ごみ減量推進会議の立ち上げ

平成10年2月14日左京区の聖護院・川東・新
洞学区で設立総会が開かれ、正式にスタート
した。続いて3月の日山科区西野地域でごみ
減量推進会議が誕生した。



へ搬入するリサイクル事業を開始した。
(参加事業所数：21事業所（3月末現在）)
回収総量（7月～9月）：約300t（トントン）

リサイクル事業を中心には
多彩な活動が際だった。

下鴨・葵・松ヶ崎地区ごみ減量推進会議の活動
●リサイクルフェアの開催（4月1日～19日）
下鴨小学校・京都銀行下鴨支店・松ヶ崎小学
校を会場として巡回し、リサイクルの必要性
の普及を目的にリサイクル製品やパネルの展
示などによるリサイクルフェアを開催した。

●再生紙トイレットペーパーのセール

6月15日から一週間、環境月間の取組として
再生紙のトイレットペーパー・ティッシュの安
売りを会員の店舗で実施した。

●使用済みてんぶら油リサイクルモニタリング事業

家庭で使用済みとなつたてんぶら油を回収し、
リサイクルする事業を展開。回収された油は、
ディーゼル・エンジン燃料として、京都市の
ごみ収集車に利用される仕組み。8月より毎
月第2土曜日に地域の6カ所の回収場所にて
推進会議の役員立ち会いの下に回収。8月～
3月の計8回で約2,700コットルを回収
した。

捨てられたシーケンシングな書類を
事業としてリサイクルに。

●秘密書類リサイクル事業

7月8日から事業所等の秘密書類を製紙工場
会員に配布した。

京都市民は、ごみ減量にどう取り組んでいる？

リアル・リンク
京都の
街頭アンケート
より

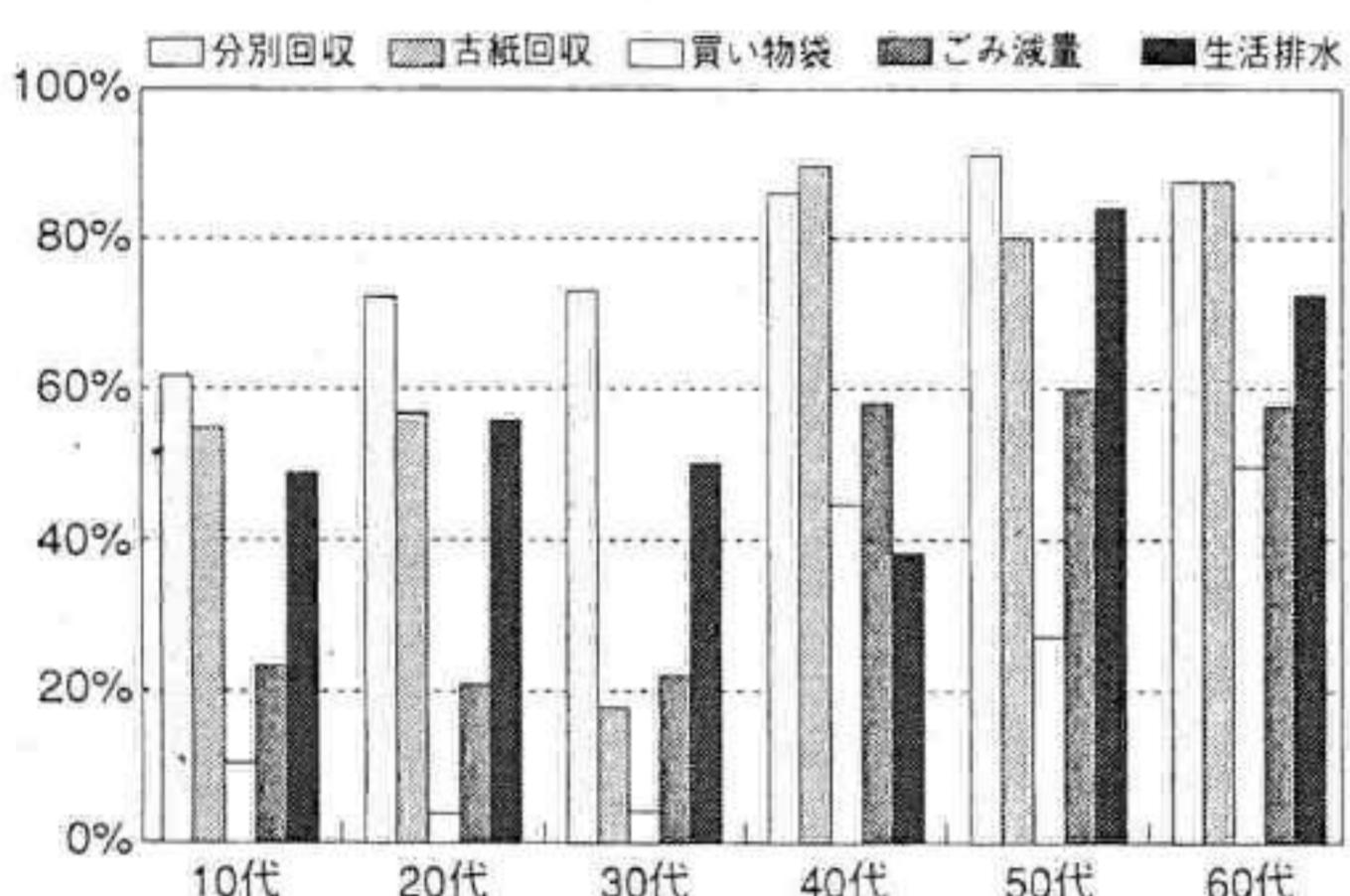
約7割が分別してごみを出している。買い物袋持参も20%近い。

「環境に対し普段心がけてしている行為について」という質問項目で最も多かつたのは、分別ごみ収集への協力。7割以上がきちんと分別して出していると答えた。缶・びんの2種混合式による分別ごみ収集は、一昨年の6年10月スタートしたばかり。約一年というと考慮すれば、協力率は高いといえるのかも知れない。

● 環境に対し警戒心がけている行為について

	回答数	割合
ゴミはルールに従ってきちんと分別して出すようにしている	201	75.6%
新聞、雑誌は古紙回収に回すようにしている	179	67.3%
買い物には買い物袋を持参している	51	19.2%
日常生活において出来るだけゴミを出さないようにしている	92	34.6%
台所で油や食べかすを排水口から流さないようにしている	153	57.5%

●環境に対し普段心がけている行為について（年代別）



●新しい京都市のごみ回収システムについて

全 体	回答数	割合
前のほうがよかったです	22	8.3%
よくなつた	105	39.5%
もっと改善するべき	53	19.9%
興味がない（含 わからない）	86	92.3%
	266	

● 標木数及びその特徴

有效回答数 266 枚

現住所：京都市136 京都府51 その他79

性別	男性	92	女性	174			
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
	52	98	22	29	25	40	266

年代による差が歴然。
20代、30代の意識の低さが気がかり。
前述のアンケート項目への取り組みを年代別に見ると、40代以上の層は、「ごみ」に対して意識が高いといえるだろう。問題は、30代以下で、買い物袋の持参、「ごみ減量への努力などお寒い限り。調査したリアル・リンク京都では、「モノ不足」を経験した世代、経験していくなう世代とのモノに対する感覚の違いが如実に現れていると分析している。

京都市のごみ回収システムについては興味のない人もかなりいる。

“環境と経済の調和”をモットーに、「ストップ・フロン・きょうと」というネットワークを発足させるなど、様々な活動を展開しているリアル・リンク京都。昨年6月から大学生で構成する環境NGO「SCOP」と共同で街頭アンケートを毎月実施している。去る9月28日、四条河原町にて聞き取り調査を行った中から、「みに関するものを取り上げてみた。

東部山間埋立処分地見学レポート

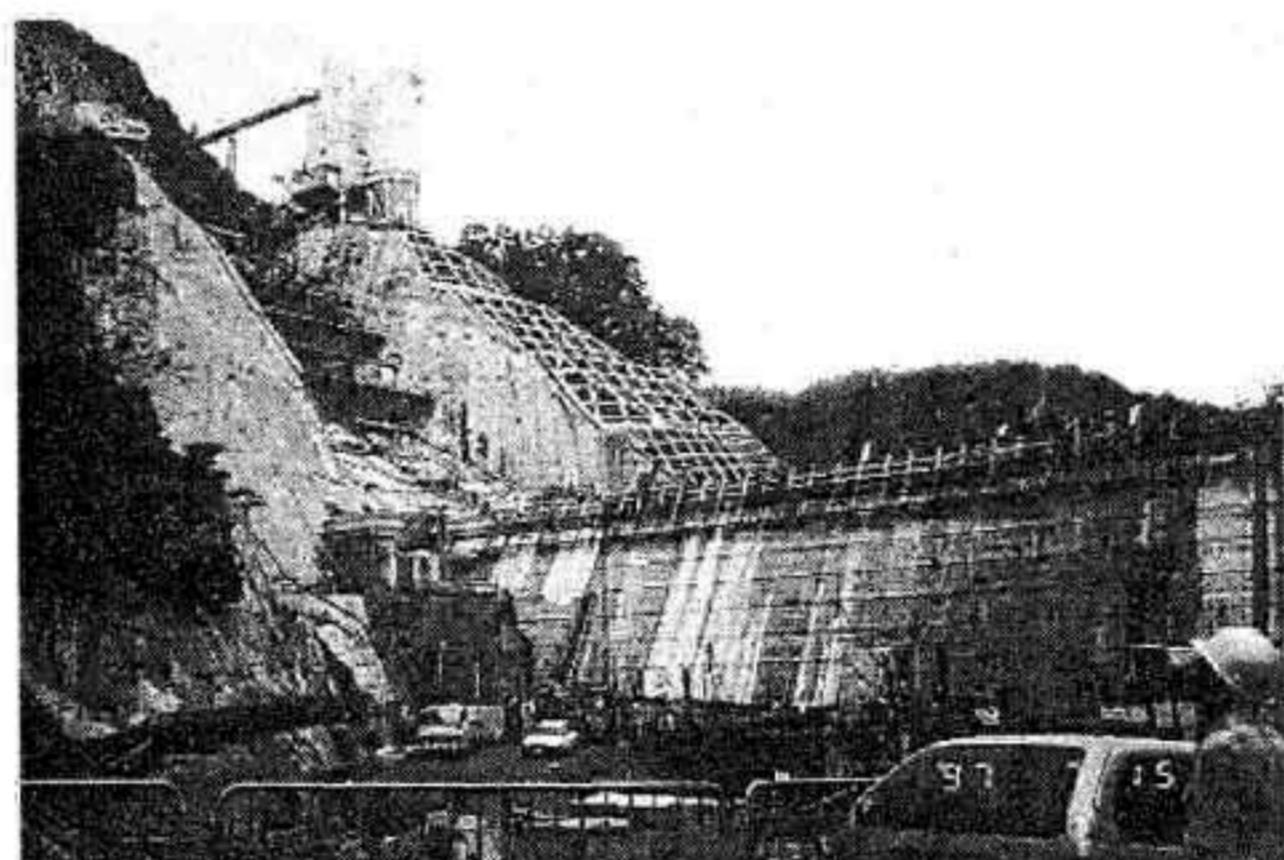
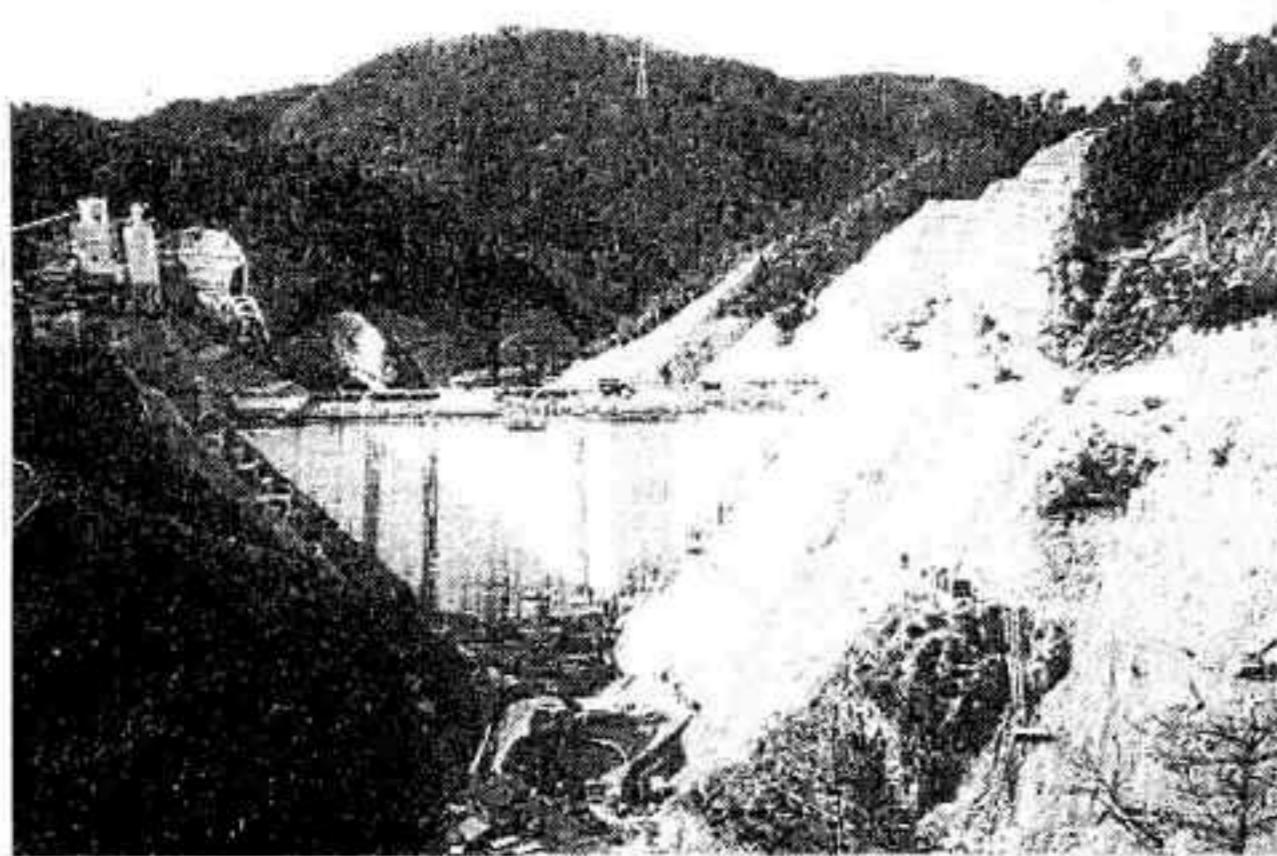
めぐるくん推進友の会 副代表幹事 吉村佳代子

146万の京都市民のごみのために切り開かれた山中

山科区と伏見区の境、もう少し東へ行けば滋賀県というところの山中に東部山間埋立処分地が建設されている。山科区内野御所ノ内町から進入路を入ると道は九十九折れに山を登つていき、その間橋梁13カ所、桟道橋7カ所、トンネルが3カ所。この光景を見て「あの万里の長城のようなものは何ですか?」と尋ねた人もいたとか。ひとしきり登ると、今度は谷底に巨大なV字型のコンクリートダ

ムが見えてきた。これが埋立処分地だ。完成すれば高さ68m、長さが192m。平成11年度の使用開始に向けて極寒のなか、突貫工事が進められている。さらにその上には山の木を伐採した分の保水能力を補うため、治水用のダムがある。これらの施設の総工事費に約520億円の税金が使われている。朝、家の前にごみを出せば知らぬ間に持つていってもらえる。ごみの処理費は“タダ”のように思ってはいらないだろうか。146万人の京都市民のごみの廃棄はこんなにも大がかりになっている。

規模は大きいが15年間で埋立が完了。ごみを出さない生活様式への変革が急務。



東部山間埋立処分地の埋立処分量は、約450万tで現在の水垂処分地の4倍以上の規模である。と聞くと、随分長く利用できそうだが、公式に発表されている埋立期間はたったの15年。京都市のごみ処理量は、リサイクルやごみの減量が呼びかけられたとしても年々増え続け、平成8年度には79万tに達している。のまま過剰包装や使い捨て容器が増え続ければ、埋立処分地の耐用年数はさうに

短くなるだろう。この処分地は、計画から完成まで21年を要している。このサイクルでいけば、もう次の処分地を計画しているはずだ。しかしその処分地は予定されていないし、このような埋立処分地を未来永劫造り続けていくわけにもいかない。この東部山間埋立処分地ができるだけ長く使えるように、できれば最後の処分地となるように、私たちがごみを出さないライフスタイルに変えていかなくてはいけない。15年などアツといふことはない。15年などアツといふことはない。「次世代の子どもたちのために…」などとは聞いてからなくなってきたようだ。

京の始末自慢シリーズ⑤

京では盆地特有の蒸し暑さをしのぐ暮らしの知恵が育んできた。そのひとつに建具の入れ替えがある。裸をはずし、葦でできた戸をはめる。坪庭から吹き込む風は、葦と葦の間を通り、部屋をゆるゆる抜けていく。一陣の風が涼をもたらす。東の間暑さを忘れ、爽やかさに包まれる。ある西陣の町屋では、毎年6月、晴れた日を選んで裸をはずし戸に入れ替えるという。もちろんエアコンなどという文明の利器はない。自然の風が通る部屋でビールを飲み、素麺をする。なるほど涼しげだ。

節電や省エネ、始末やわたりないは風流を運んでくる。

*文中のデータは「京のアクションタウン」パンフレットから引用したものです。



左からほかさんとて委員会の大西啓子さん、山田晴美さん。

Series

会員探訪

現在145に達している京都市ごみ減量推進会議の会員。それぞれにごみ減量への取組があるにちがいありません。知恵と工夫にあふれた活動に学ぶことは、ごみ減量への取組をさらに活発化させる上で、大いにプラス。ごみ減量に前向きな会員を訪ねていきました。

使い捨て時代を考える会

「これがごみ問題だから」と「ほかさんとて委員会」という名称になったのは2年後のこと。牛乳パックの回収のほか、再生紙ノートの供給の段取り、ごみ問題がどう問題だかなど、「ほかさんとて委員会」が主役となつて取り組んでいくべきです。使い捨て時代を考える会においては、私たち「ほかさんとて委員会」が主役となつて取り組んでいかなければいけないのです。それに、京都市ごみ減量推進会議での事業にも積極的に参加する予定にしています。

「使い捨て時代を考える会」は、昨年の連続講座は、今後の「ほかさんとて委員会」のひとつの方針性をうけて開催されました。今、環境監査があちこちで導入されています。使い捨て時代を考える会においては、私たち「ほかさんとて委員会」が主役となつて取り組んでいかなければいけないのです。それに、京都市ごみ減量推進会議での事業にも積極的に参加する予定にしています。

Q

京都の市民団体としては老舗的な存在と聞いていますが、じつどのような目的で発足したのですか？

A

会が出来たのは1973年、当時の日本は「消費は美德」という考え方方が大手を振る、大量生産・大量消費・大量廃棄の真っ盛り。その結果、公害、環境汚染、健康への害など様々な弊害が多く発するようになりました。物ばかりか人の命さえも使い捨てられている現状に疑問を抱く仲間が集まり、使い捨てを少しでも改めていくことを発足させたのです。

Q

具体的にどのような活動を重ねてこられたのですか？「安全農産供給センター」という組織を持ち、有機野菜など食材の供給事業もされているそうですが、

A

まず、最初に古紙回収を始めました。リヤカーを引いて集めて回ったんですよ。安全な粉石けんの供給や手作りみその講習会、子供服の不用品交換会、農業体験教室…。本当にいろいろな活動をしてきました。和歌山から無農薬みかんを仕入れたことがきっかけで安全農産供給センターをスタートさせたのは1975年。「作り手」である生産者と「受け手」である消費者の関係を単なる物流ではなく信頼関係で結びつける新しい「流れ」を形成しようと努めています。

Q

ごみ問題などを考え、リサイクルを実践する「ほかさんとて委員会」というグループがあるそうですが？

A

今から13年前つまり1975年、「牛乳パックを何とかしたい」との声で「牛乳パック回収委員会」ができました。供給元である安全農産供給センターが集め、整理と製紙メーカーへの運搬手配を委員会が受け持つというかたちで回収が始まりました。やっている



↑牛乳パックの整理をする委員会のメンバー。

一年2回再生紙ノートなどの供給に取り組んでいる。

Q

最近は、どんな活動をされましたか？

使い捨て時代を考える会

事務所 〒600-8035

京都市下京区寺町通り高辻下ル竹内ビル

1973年発足。大気汚染、食品公害などによって脅かされる現状をひとりひとりが協力し合い、助け合いながら改善することを目的に自主的な活動を続けている。現代の使い捨て生活が様々な形で私たちの生活に深刻な影響を与えていているのは、自らの責任もあるとの認識から、自主的な活動を続けています。また、作り手と受け手が信頼によって暮らしのあり方を考える「安全農産供給センター」も運営している。



安全農産供給センターのマーク

フサイクルアセスメントなどを4回にわたり、産直型小規模流通における環境マネジメントのモデル作りについて、講師を招き勉強しました。

Q

今後はどのような活動をされる予定ですか？

A

実は、昨年の連続講座は、今後の「ほかさんとて委員会」のひとつの方針性をうけて開催されました。今、環境監査があちこちで導入されています。使い捨て時代を考える会においては、私たち「ほかさんとて委員会」が主役となつて取り組んでいかなければいけないのです。それに、京都市ごみ減量推進会議での事業にも積極的に参加する予定にしています。

生まれ変わる古紙

古紙品種名	紙品種名	紙製品名
段ボール	段ボール原紙	段ボール箱
不織布	段ボール原紙・包装用紙など	トレイ・ペーパーなどの 菓子や葉子箱など各種箱類
台紙・上台紙	段ボール原紙・紙器用板紙	段ボール箱・菓子箱など各種箱類
雑誌	紙器用板紙・建材原紙など	菓子箱など各種箱類
新聞	新聞巻取紙・段ボール原紙など	新聞紙・段ボール箱など
上白・カート	紙器用板紙など	菓子箱
模造紙	上白・カート	ちり紙・トイレットペーパー
特白・中白	印刷用紙・図画用紙など	ちり紙・トイレットペーパー
白マニア	印刷用紙・図画用紙など	週刊誌・雑誌・ノート・画紙 マンガなど
切中質反符	印刷用紙・図画用紙など	



京都府紙料協同組合の方。左から谷藤佳孝会計理事、小枝豊彦理事長、増田典副理事長。

京都府紙料協同組合

Q

京都府紙料協同組合といふような団体なのでですか？

A

私たちがつくる製紙原料問屋の集まりです。京都にある25社で組織をつくりています。製紙原

料問屋というのは、回収業者が集めてきた古紙を選別、分類した上で梱包（ハーフ処理）し製紙メーカーに届けるまでの過程を担います。古紙の集約だけでなく、品質管理、出荷の調節も大切な業務です。私たちが送り出す古紙は品質面で信頼され、京都ブランドといわれた頃もありました。全国の年間紙・板紙の生産量は3000万トン前後、このうち55%に当たる約1600万㌧が、古紙でまかなわれてゐるのです。京都市の場合、年間16万800㌧が古紙のリサイクルで使われてると推定できます。

Q

現在、古紙の価格が暴落してリサイクル市場全

体が揺らぐでござるやうですね。

A

新聞紙や段ボールなどの一梱当たりの単価は、昭和45年頃は、25円、平成7年秋には10円程度でした。それが、今では1~4円に落ち込んでしまって大きさ打撃を受けています。リサイクルの意識が高まり、あちこちで古紙回収されるようになり、回収量がいっきに増えしてきたのに対し、需要の方は少しずつに増えない。それが、大きな要因です。古紙のリサイクルに取り組み、活動資金としてきた社会福祉施設や自治会などに対し、行政が助成金を出してくるものもあるのです。

古紙業界が揺らぐ原因が増えるといふ問題も抱えていることになるのです。すでに雑誌などは古紙回収が有料化してあるといふあるため、通常のじみじみ出している市民もいます。市場を守りなければ、私たちだけではなく行政も大きな悩みを持つことになります。こ

のまま放つておくる市場が崩壊し、これが増えることになるとじみます。原料となる森林を破壊してしまふと化して大気汚染、エネルギーの無駄遣いと大きな問題に発展する危険性をはらんでいます。

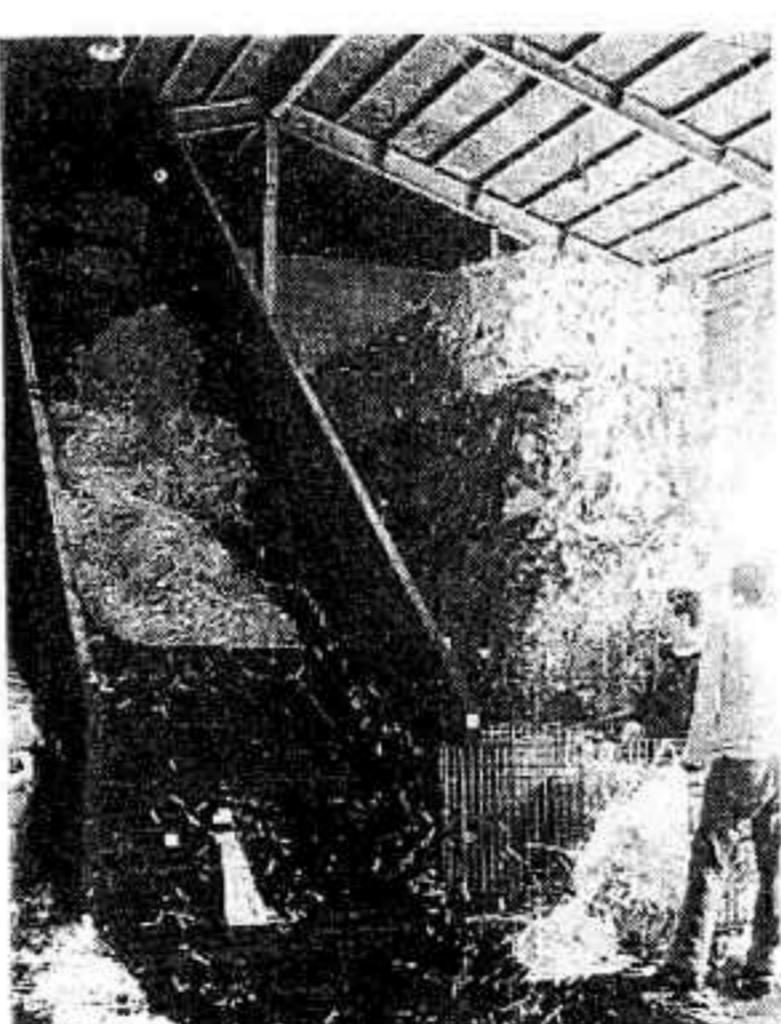
Q

市場の悪化を好転せむかはせばはじめとおさえですか。なにか妙案はあるのでしょうか？

A

再生紙製品の需要を高めないと。それに及ぶるでじょ。けれど、スーパーなどの店頭でも紙パ

ックの回収箱の横で「アーリーバルブ100%のトイレットペーパーを安売りしているのが現実ですからね。オフィスでも約7割がヴァージンバルブ100%の「パー



プレスされる古紙。ここで梱包されメーカーへ運ばれる。

量的には多いとは言ませんが、古紙再利用とリサイクルのシステムがスタートしました。その動きはどうなのじみますか？

Q

リサイクルのシステムがスタートしました。そのうえでは、じご取り組みだと評価してしまいます。

A

事業所のじみ減量にもハーフですじみ。出しきはなしではなく、オフィスで再生紙を使って使うことが大きな課題ですね。

Q

今後はどのような活動をされる予定ですか？

A

具体的には、古紙の定期収集ができると思っています。行政、市民そして私たち古紙問屋などの事業者団体のパートナーシップとともに考えて、なにか行動していきたい。昨年末京都府じみ減量推進会議の理事会で「再生紙の利用促進緊急アピール」が採択されました。あのアピールのとおり古紙業界は危機に瀕しています。オフィスで家庭で再生紙が使われる需要が増えるようアクションを起こします。京都府じみ減量推進会議の会員の皆様もよろしくお願いします。

京都府紙料協同組合

所在地

〒601-8181

京都市南区上鳥羽堀子町133

小枝紙業内

出資金 846千円

組合事業 取扱品の共同保管、共同出資金融斡旋団体協約製紙工場等の見学等

組合員数 25名

「ごみ」意見番

ごいんばん

買い物袋デザインコンテストで最優秀賞に選ばれた新谷葉子さんのデザインマークをプリントした京都市ごみ減量推進会議のオリジナルバッグ。プレゼントに応募された645人の方々の中からごみ減らしの工夫を紹介。

- 牛乳パックをこうして工夫しています。
 - 牛乳が好きで一日1㍑以上飲みますが、パックは手ですいてハガキにしています。(67歳)
 - 当たり前ですが、洗つて切り開いて乾かして、近くのスーパーの回収ボックスへ。(32歳)
 - 適当に切り、二個分で小物入れ、筆立てにしてフレゼントにしています。(73歳)

生地みをして工夫します。

- 大根の皮、人参の皮、ブロッコリーの芯など…。捨ててしまつうやうなものを又力漬けに。園じたえがあつておいしい漬け物に。

※油で揚げる人やスーパーに使う人もありました。

- じじみの殻を乾かし、わりめんのかわいい生地をかぶせ、鈴をつけて飾り物に。差し上げた時の喜んでくださる顔がうれしくて、せつせと創っています。(50歳)

ます。(50歳)

布類

生地みをして工夫します。

- 使っていている整理箱に使っています。

紙工

- 折り込みチラシでごみ箱を作りました。(64歳)
- チラシの裏の白い部分は漢字の練習や計算の紙に使ひます。(12歳)
- ラップの替わりにプラスチックのふたを利用。(60歳)
- 紙おむつを出かけるときだけ。家では布おむつです。(31歳)



- 残り物のおかずは、腐らないうちに圧力鍋に入れ、野菜くずと煮てカレーに。(→)それをへのへのもへのかレーと名付けている。(38歳)
- コーヒーのカスはレンジでチンしてピンなどに入れ、冷蔵庫の脱臭に。灰皿や、玄関にも置いて臭いを消します。(62歳)
- 木の葉は水に漬けて腐らせ、肥料として使用。(64歳)
- 大根や人参のヘタは水栽培し、観葉植物として楽しむ。魚は頭まで焼き、犬の餌に混ぜる。(24歳)
- だしをとつた後の昆布を佃煮にかる。

容器・包装材

をこうして工夫します。

- 食パンの袋を捨てずに流しのごみ受けにしています。
- フリン、コーグルト、豆腐の容器は植物の種をまき、苗床に使っています。
- フィルムケースをボタン収納、種入れ保存容器として活かしています。(49歳)
- 菓子箱を工夫して3段引き出しあや、5段引き出しを作りました。(73歳)
- 包装用の紐を蝶々結びにしてスプレーを塗り、箸置きにした。
- 買い物時のレジ袋を断る。
- 本屋さんではカバーを断る。
- 合成樹脂、合成繊維製品より、木・金属・綿・絹の製品を選ぶ。(17歳)
- 牛乳はピンドで販っています。(47歳)

使いません

に徹しています。

あなたの意見をお寄せください

このページは、ごみに関する自由な発言コーナーです。どなたでもどんなご意見でも歓迎します。京都市ごみ減量推進会議までお手紙をどうぞ。

〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局事業部
リサイクル推進課内

☎ 075-222-4091
fax 075-213-0453

京都市ごみ減量推進会議 会報「ごみを減らそう!!」NO.5
1998年(平成10年)3月発行
編集発行 京都市ごみ減量推進会議